



# Red Hat Hybrid Cloud Console 2023

## Red Hat Hybrid Cloud Console での通知および 統合の設定

アカウントユーザーがイベントトリガーの通知を受信できるように Hybrid Cloud Console 設定を設定する



## Red Hat Hybrid Cloud Console 2023 Red Hat Hybrid Cloud Console での 通知および統合の設定

---

アカウントユーザーがイベントトリガーの通知を受信できるように Hybrid Cloud Console 設定を設定する

## 法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

通知を使用して、発生した特定のイベントと、これが組織に影響を与える可能性について確認します。Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ をご覧ください。

---

## 目次

<b>第1章 RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE の通知および統合の概要</b> .....	<b>3</b>
1.1. 通知サービスの機能	3
1.2. 通知および統合の概念	3
1.3. INSIGHTS のイベントと通知のオプション	5
<b>第2章 ユーザーアクセスの設定</b> .....	<b>7</b>
2.1. ユーザーアクセスでの通知グループの作成および設定	7
2.2. ユーザーアクセスグループの編集または削除	8
<b>第3章 統合の設定</b> .....	<b>9</b>
3.1. HTTP POST メッセージ	9
3.2. 統合の設定	10
<b>第4章 通知動作グループの設定</b> .....	<b>12</b>
4.1. 動作グループの作成	12
4.2. 動作グループの変更	15
<b>第5章 ユーザー設定</b> .....	<b>19</b>
5.1. メール通知のユーザー設定	19
<b>第6章 イベントログおよび統合設定での通知の失敗に関するトラブルシューティング</b> .....	<b>20</b>
6.1. イベントログでの接続失敗の確認	21
<b>RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)</b> .....	<b>22</b>



# 第1章 RED HAT HYBRID CLOUD CONSOLE の通知および統合の概要

Red Hat Hybrid Cloud Console の通知サービスにより、ユーザーは、イベントによってトリガーされる通知がないかどうか、ユーザーインターフェイスを定期的にチェックする必要がなくなります。代わりに、イベントが発生すると、サービスが自動的にアクションを実行して、イベントに関する通知をユーザーに送信します。



## 重要

通知管理者ロールを含むグループおよびロールは、電子メールおよび統合でイベントを報告するために、組織管理者によって設定される必要があります。

Red Hat Hybrid Cloud Console プラットフォームでのユーザーアクセスの詳細については、[ロールベースアクセスコントロール \(RBAC\) のユーザーアクセス設定ガイド](#) を参照してください。

## 1.1. 通知サービスの機能

通知サービスを通じて、Red Hat Hybrid Cloud Console アプリケーションおよびサービスには、ユーザーにイベントを通知する標準化された方法があります。動作グループを設定することにより、通知管理者は通知配信方法を指定し、イベント通知をアカウントのすべてのユーザーに送信するか、組織管理者のみに送信するかを指定します。

たとえば、通知管理者は、システムでの (アドバイザーサービスの) 新しい推奨ヒットのメール通知を送信するようにサービスを設定できます。同様に、管理者は、webhook 統合タイプを使用して、メッセージをサードパーティーのアプリケーションに送信する通知をトリガーすることを決定する場合があります。

組織管理者は、通知管理者ロールでユーザーアクセスグループを作成し、そのグループにアカウントメンバーを追加して、通知管理者を指定します。次に、通知管理者は、サービス固有のイベントが発生したときに実行されるアクションを定義する通知動作グループを設定します。

通知サービスは、イベントによってトリガーされる通知をユーザーのメールアカウントに、または webhook を使用してサードパーティーのアプリケーションに送信します。Hybrid Cloud Console アカウントのユーザーは、メール通知を受信する独自の設定を行います。各ユーザーは、[User preferences > Notifications > application bundle](#) で個人設定を行い、イベント通知のメールを即時通知または毎日のダイジェストとして受け取るように設定します。



## 重要

サービスの **即時通知** を選択すると、大量のメールを受け取る可能性があります。

## 1.2. 通知および統合の概念

以下の表では、通知サービスの仕組みを理解する際に重要な用語を定義しています。

表1.1 通知の概念

概念	説明
----	----

概念	説明
アクション	<p>イベントに応答して実行される操作。例としては、電子メールの送信や webhook などの統合エンドポイントへの通知の転送があります。アクションは、通知管理者によって設定された動作グループで定義されます。</p>
アプリケーションバンドル	<p>アプリケーションバンドルは、Red Hat Enterprise Linux (Insights for RHEL) や OpenShift などの Hybrid Cloud Console 内のアプリケーショングループを参照します。</p>
動作グループ	<p>動作グループは、イベントが発生したときに実行するアクションと、すべてのアカウントユーザーに通知するか、指定された管理者のみに通知するかを決定します。通知管理者が動作グループを作成すると、それをイベントタイプに関連付け、通知管理者がすべてのアプリケーション固有のイベントに同じアクションを適用できるようにします。</p> <p><b>注記:</b> 通知管理者は、アプリケーションバンドルごとに通知動作グループを別々に設定します。</p>
メール設定	<p>Hybrid Cloud Console でアプリケーションにアクセスできる個々のユーザーは、個人のメール設定を行います。ユーザーは、個人の電子メール通知をイベントが発生するとすぐに受信するように設定したり、すべてのアカウントで毎日のダイジェストに統合して深夜 (協定世界時 (UTC) 00:00) に受信するように設定したりできます。</p> <p><b>重要:</b> いずれかのサービスの即時通知を選択すると、大量のメールを受信することになる可能性があります。</p>
イベントタイプ	<p>イベントタイプは、アプリケーション固有のシステム変更で、アプリケーションやサービスをトリガーして通知アクションを開始します。イベントタイプは、Red Hat でアプリケーション開発者が作成し、アプリケーションバンドルごとに固有です。Insights for RHEL (Red Hat Enterprise Linux) アプリケーションバンドルの例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* <b>ポリシーサービス:</b> ポリシーがトリガーされました。</li> <li>* <b>ドリフトサービス:</b> ベースラインからのドリフトが検出されました。</li> <li>* <b>アドバイザーサービス:</b> 新しい推奨事項。解決した推奨事項。</li> </ul>



概念	説明
統合	統合は、通知管理者が設定したサードパーティーアプリケーションへの通知の配信方法を定義します。設定が完了すると、通知サービスが HTTP POST メッセージをエンドポイントに送信します。
ユーザーアクセス出カル	以下のユーザーアクセス出カルは、通知と対話します。  * 組織管理者  * 通知管理者  * 通知ビューアー

### 1.3. INSIGHTS のイベントと通知のオプション

Insights を組織のワークフローに統合するには、主に 3 つの方法があります。

- Insights API の使用
- ユーザーに直接 Webhook や電子メールを使用する
- Splunk や ServiceNow などのサードパーティーアプリケーションとの統合の使用

#### 1.3.1. Insights API の使用

Insights API は公開されており、認証されたクライアント (RBAC 制御) からクエリーを実行できます。

アプリケーションおよびサービスで利用可能なエンドポイントの詳細については、[Red Hat Insights API のドキュメント](#) を参照してください。CSV 形式の応答の例については、[System Comparison API ドキュメント](#) を参照してください。

[Red Hat Insights API チートシート](#) では、Insights API の使用について説明しています。認証とエンドポイントのクエリーをすばやく開始するのに役立つ例を提供します。ほとんどの例では `curl` コマンドを使用していますが、このドキュメントには、Python で記述されたクライアント用のサンプルコードと、同様の操作を実行する Ansible Playbook も含まれています。

#### 1.3.2. 統合 Webhook の使用

Webhook は、イベントによってトリガーされたときに一方向のデータ共有を有効にすることを除いて、API と同様に機能します。API は双方向でデータを共有します。インバウンドデータリクエストを許可するアプリケーションは、公開された Webhook を持っていると言われています。

アプリケーション内で公開されている Webhook の特定のエンドポイントに POST メッセージを送信するように Insights を設定できます。この機能は、通知サービスと連携して機能します。たとえば、Insights が新しい Advisor の推奨事項を特定するとすぐに、選択した管理者アカウントに新しい Advisor の推奨事項を自動的に電子メールで送信するように Insights を設定できます。

通知でエンドポイントを設定したら、Insights イベントのストリームをサブスクライブし、そのストリームを選択した Webhook に自動的に転送できます。各イベントには追加のメタデータが含まれており、運用ワークフローの一部としてイベントを処理する (たとえば、特定のアクションを実行したり、

応答をトリガーしたりする) ために使用できます。アプリケーション内での実装とデータ処理を設定します。

Webhook を設定および使用する方法的詳細は、[統合の設定](#) を参照してください。

### 1.3.3. サードパーティー製アプリケーションの使用

Insights サードパーティーアプリケーションの統合は、ユースケースに応じて、次の2つの方法のいずれかで機能します。

- Insights API を使用してデータを収集し、タスクを実行する
- Insights イベントのストリームをサブスクライブする

Red Hat Insights 統合を使用して、Splunk、ServiceNow、Slack などの特定のサードパーティーアプリケーションにイベント通知を転送できます。この統合により、アプリケーションダッシュボード (Splunk ダッシュボードなど) を使用して、既存のワークフローで Insights データを表示および使用できるようになります。Slack の場合、通知は設定したチャンネルに Slack メッセージとして表示されます。

Insights for Red Hat Enterprise Linux をサードパーティーアプリケーションと統合する方法の詳細は、[Red Hat Hybrid Cloud Console での統合とイベントの設定](#) を参照してください。

#### 関連情報

- [Red Hat Insights のデータとアプリケーションのセキュリティ](#)
- [Red Hat Insights API ドキュメント](#)
- [developers.redhat.com の Red Hat Insights API チートシート](#)
- [System Comparison API のドキュメント](#)

## 第2章 ユーザーアクセスの設定

アカウントユーザーが通知および統合設定を設定する前に、通知管理者ロールを持つグループを組織管理者がユーザーアクセスで設定する必要があります。[Red Hat Hybrid Cloud Console > Settings > ニュー \(歯車アイコン\) > Identity & Access Management > User Access > Groups](#) で、組織管理者は以下の高レベルの手順を実行します。

- 通知管理者のユーザーアクセス **グループ** を作成します。
  - 通知管理者 **ロール** をグループに追加します。
  - **メンバー** (アカウントアクセスを持つユーザー) をグループに追加します。

### 組織管理者

組織管理者は、通知管理者のユーザーアクセスグループを設定してから、通知管理者ロールおよびユーザーをグループに追加します。

### 通知管理者ロール

通知管理者は、アプリケーションが通知と対話する方法を設定します。通知管理者は、動作グループを設定して、アプリケーションがイベントについてユーザーに通知する方法を定義します。管理者は、追加の統合が利用可能になったときに設定したり、既存の統合を編集、無効化、および削除したりできます。

### 通知ビューアーロール

通知ビューアーロールは、アカウントのすべてのユーザーに自動的に付与され、ユーザーが通知サービスビューおよび設定と対話する方法を制限します。ビューアーは通知設定を表示できますが、変更または削除できません。また、ビューアーは、統合を設定、修正、削除できません。

Red Hat Hybrid Cloud Console プラットフォームでのユーザーアクセスの詳細については、[ロールベースアクセスコントロール \(RBAC\) のユーザーアクセス設定ガイド](#) を参照してください。

## 2.1. ユーザーアクセスでの通知グループの作成および設定

以下の手順では、アカウントの **組織管理者** が、**通知管理者** ロールを持つグループを作成し、メンバーをグループに追加する方法を示しています。

### 前提条件

- 組織管理者として Red Hat Hybrid Cloud Console アカウントにログインしている。

### 手順

1. アプリケーションウィンドウの右上にある **ギアアイコン** をクリックし、**Settings** を選択します。



2. 左側の Settings メニューから **User Access** をクリックし、**Groups** を選択します。
3. **Create Group** をクリックします。
4. 通知管理者などのグループ名と説明を入力してから、**Next** をクリックします。

5. このグループに追加するロールを選択します (この場合は **Notifications administrator**)。そのロールのチェックボックスをクリックしてから、**Next** をクリックします。
6. グループにメンバーを追加します。個々のユーザーを検索するか、ユーザー名、メール、またはステータスでフィルターリングします。対象となる各メンバーの名前の横にあるチェックボックスにチェックを入れてから、**Next** をクリックします。
7. 詳細を確認して、すべてが正しいことを確認します。戻って変更する必要がある場合は **Back** をクリックします。
8. **Submit** をクリックしてグループの作成を終了します。


## 2.2. ユーザーアクセスグループの編集または削除

ユーザーアクセスグループを編集または削除する必要がある場合は、以下の手順を実行します。

### 前提条件

- 組織管理者として Red Hat Hybrid Cloud Console アカウントにログインしている。

### 手順

1. [Red Hat Hybrid Cloud Console > Settings メニュー \(歯車アイコン\) > Identity & Access Management > User Access > Groups](#) でグループ名を見つけます。
2. グループ名の行の右端にあるメニューオプションアイコン (  ) をクリックし、**Edit** または **Delete** をクリックします。
3. 変更して保存するか、グループを削除します。

## 第3章 統合の設定

Red Hat Hybrid Cloud Console の通知および統合サービスは、トリガーするイベントが発生すると連携して、インスタントメッセージングプラットフォームや外部チケットシステムなどのサードパーティーアプリケーションエンドポイントにメッセージを送信します。

これにより、通知管理者は Hybrid Cloud Console 機能を組織で使用される運用ワークフローに統合できます。統合は、通知管理者によって [Red Hat Hybrid Cloud Console > Settings > Integrations](#) のエンドポイントとして設定されます。



### 注記

Webhook は、Red Hat Hybrid Cloud Console プラットフォームでサポートされる現在の統合タイプです。これを設定すると、サービスは HTTP POST メッセージを指定のサードパーティーアプリケーションエンドポイントに送信します。

### 3.1. HTTP POST メッセージ

以下のスクリーンショットは、サードパーティーのアプリケーションエンドポイントに送信される HTTP POST メッセージの例です。イベントタイプはサービスまたはアプリケーションに固有のもので、たとえば、Insights for RHEL アプリケーションバンドルは現在、ポリシー、アドバイザー、ドリフトサービスからのイベントを設定済みユーザーに通知します。Insights for RHEL アドバイザーサービスからの以下の通知例は、ホストシステムの新しい推奨事項によりトリガーされました。

```
{
  "bundle": "rhel",
  "application": "advisor",
  "event_type": "new-recommendation",
  "account_id": "5685364",
  "timestamp": "2021-10-20T00:37:11.967169",
  "events": [
    {
      "payload": {
        "rule_id": "hardening_unencrypted_avahi|HARDENING_UNENC_AVAHI",
        "rule_description": "Decreased security when Avahi is externally accessible",
        "total_risk": "3",
        "publish_date": "2021-08-31T12:00:00+00:00",
        "report_url": "https://console.redhat.com/insights/advisor/recommendations/hardening_unencrypted_avahi|HARDENING_UNENC_AVAHI/255375f1-1ab9-44f4-96d8-d57e6585b48a",
        "rule_url": "https://console.redhat.com/insights/advisor/recommendations/hardening_unencrypted_avahi|HARDENING_UNENC_AVAHI/"
      },
      "metadata": {}
    }
  ],
  "context": {
    "inventory_id": "255375f1-1ab9-44f4-96d8-d57e6585b48a",
    "hostname": "rhel8desktop",
    "display_name": "rhel8desktop",
    "rhel_version": "8.4",
    "host_url": "https://console.redhat.com/insights/inventory/255375f1-1ab9-44f4-96d8-d57e6585b48a"
  }
}
```

この例では、ブロックには以下の情報が含まれます。


#### 1. 通知を送信するバンドルおよびアプリケーションに関する情報

- **bundle:** アプリケーションバンドルの名前
- **application:** イベントによってトリガーされる通知を送信する個々のアプリケーションまたはサービスの名前

- **event\_type:** 通知をトリガーしたイベントタイプ
  - **account\_id:** 通知が送信された Red Hat アカウント
  - **timestamp:** 通知が送信された日時を示す ISO-8601 形式の日付
2. アプリケーションまたはサービス固有のイベントに関する情報
    - **payload:** アプリケーションペイロード (アプリケーションによって送信されたすべてのデータを含む JSON 文字列)
  3. イベントが発生したシステムに関する情報以下に例を示します。
    - **inventory\_id:** システム ID
    - **hostname:** システム名
    - **rhel\_version:** システムで実行している RHEL バージョン

メタデータフィールドは現在使用されていません。

## 3.2. 統合の設定

通知管理者は、組織の統合を設定します。通知管理者は、新しいインテグレーションを追加するだけでなく、インテグレーション名の右側にある More オプションメニューアイコン  をクリックしてから、適切なオプションをクリックすることで、リストされているインテグレーションを編集、削除、または無効にできます。

### 前提条件

- 以下の手順を実行するために、ユーザーアクセスで設定した通知管理者権限で Red Hat Hybrid Cloud Console プラットフォームにログインしている。

### 手順

1. [Red Hat Hybrid Cloud Console > Settings > Integrations](#) に移動します。
2. **Add integration** をクリックします。
  - a. **Integration name** を入力します。
  - b. webhook などの統合 **Type** を選択します。
  - c. **エンドポイント URL** を指定します。
  - d. SSL 検証を有効にするチェックボックスはデフォルトで選択されています。



#### 重要

SSL は、統合エンドポイントに送信されるデータを保護するために不可欠です。Red Hat Hybrid Cloud Console をサードパーティーアプリケーションに統合する場合は、SSL を常に使用する必要があります。

- e. 必要に応じてシークレットトークンを提供します。



### 注記

定義された場合、シークレットトークンは POST HTTP リクエストの 'X-Insight-Token' ヘッダーとして使用されます。

- f. **Save** をクリックします。

新しい統合は、通知管理者が通知サービスで動作グループを設定するとデフォルトで有効になり、統合オプションとして利用できます。統合を無効にするには、統合リストの **Enabled** 列でトグルボタンを使用します。

## 第4章 通知動作グループの設定

通知管理者は、動作グループを介してアカウントの通知を設定します。通知管理者は、動作グループを作成したら、各アプリケーションバンドルに固有のトリガーされるイベントに関連付けます。

イベントが発生すると、ユーザー設定で通知の受信を選択したアカウントのすべてのユーザーと、動作グループの統合アクションとして指定されたすべてのサードパーティーアプリケーションが通知を受け取ります。

### 4.1. 動作グループの作成

Create behavior group ウィザードを使用して、新しい動作グループを作成します。ウィザードを使用すると、通知を選択し、ユーザーまたはユーザーのグループに通知を割り当て、Insights イベントを動作グループに関連付けることができます。



#### 注記

イベントは複数の動作グループに関連付けることができます。動作グループがどのイベントにも関連付けられていない場合には、イベント発生時に通知は送信されません。

組織内で最大 64 個の動作グループを作成できます。

#### 前提条件

- 組織管理者が、ユーザーアクセスで通知グループ、ロール、およびメンバーを設定している。
- Red Hat Hybrid Cloud Console プラットフォームにログインしている必要がある。
- ユーザーアクセスに通知管理者権限が設定されている。

#### 手順

1. [Insights for Red Hat Enterprise Linux > Settings](#) に移動します。
2. Settings メニューで **Notifications** を展開し、Red Hat Enterprise Linux などの **application bundle** を選択します。
3. **Create new group** をクリックします。Create behavior group ウィザードが開きます。



**Create behavior group** [Close]

1 Name  
2 Actions and recipients  
3 Associate event types  
4 Review

**Name**

Behavior group name \*

Email admins

Next Back Cancel

4. グループ名を入力してから、**Next** をクリックします。アクションと受信者 ページが表示されます。
5. **Actions** ドロップダウンリストから **Send an email** を選択するか、一覧からインテグレーションを選択します。

**Create behavior group** [Close]

1 Name  
2 Actions and recipients  
3 Associate event types  
4 Review

**Actions and recipients**

Select action and recipient pairs to assign to your notification events.

Actions	Recipient
Select action	
Send an email	
Integration: Webhook	
Integration: Splunk	
Integration: Slack	
Integration: ServiceNow	
You have no integration configured. Go to Settings > <a href="#">Integrations</a> to configure.	

Next Back Cancel

- **Send an email** を選択した場合には、Recipient ドロップダウンリストから受信者を選択します。メール通知が組織内の **すべてのユーザー** に送信されるように指定するか、または受信者を組織内の **管理者** に制限することができます。ユーザーアクセスグループを設定して

いる場合は、ユーザーアクセスグループを選択して電子メール通知を受け取ることができます。

- インテグレーション (インテグレーション: Webhook または インテグレーション: Splunk など) を選択した場合は、Recipient ドロップダウンリストからインテグレーションエンドポイントを選択します (SPLUNK\_AUTOMATION など)。



### 注記

**Settings > Integrations** で各インテグレーションのエンドポイントを設定します。アクションが無効の場合、そのイベントタイプのインテグレーションは存在しません。

- 追加のインテグレーションエンドポイントに通知するアクションを追加するには、**Add action** をクリックします。
6. アクションの追加が完了したら、**Next** をクリックします。イベントタイプの関連付け ページが表示されます。

The screenshot shows the 'Create behavior group' dialog box with the 'Associate event types' step selected. The dialog has a sidebar with steps: 1 Name, 2 Actions and recipients, 3 Associate event types (selected), and 4 Review. The main area is titled 'Associate event types' and contains the instruction 'Select event types you would like to assign this behavior group to.' Below this is a filter section with '4 selected', 'Event type' dropdown, 'Filter by event type' search box, and '1 - 15 of 15' pagination. A table lists event types with checkboxes and application names.

Event type	Application
<input type="checkbox"/> Resolved recommendation	Advisor
<input checked="" type="checkbox"/> New recommendation	Advisor
<input type="checkbox"/> Deactivated recommendation	Advisor
<input type="checkbox"/> Policy report failed to upload	Compliance
<input type="checkbox"/> System is non compliant to SCAP policy	Compliance
<input checked="" type="checkbox"/> Drift from baseline detected	Drift
<input checked="" type="checkbox"/> Validation error	Inventory
<input checked="" type="checkbox"/> Detected Malware	Malware
<input type="checkbox"/> New advisory	Patch

At the bottom of the dialog are three buttons: **Next** (highlighted in blue), **Back**, and **Cancel**.

7. 通知に追加するイベントのタイプを選択します。イベントタイプの選択が完了したら、**Next** をクリックします。**Review** ページが表示されます。

Create behavior group
✕

1 Name

2 Actions and recipients

3 Associate event types

4 Review

### Review

<b>Name</b>	Email admins	
<b>Actions and recipients</b>	<b>Action</b>	<b>Recipient</b>
	✉ Send an email	Users: Admins
<b>Associate event types</b>	<b>Event type</b>	<b>Application</b>
	New recommendation	Advisor
	Drift from baseline detected	Drift
	Validation error	Inventory
	Detected Malware	Malware

Finish
Back
Cancel

8. 動作グループに対して選択した設定を確認します。設定を変更するには、**Back** をクリックします。設定を保存して動作グループを作成するには、**Finish** をクリックします。

### 関連情報

- ユーザーアクセス (RBAC) グループを作成する方法の詳細については、[ロールとメンバーによるアクセスの管理](#) を参照してください。

## 4.2. 動作グループの変更

Edit behavior group ウィザードを使用して、既存の動作グループの設定を変更します。ウィザードを使用すると、通知を選択し、ユーザーまたはユーザーのグループに通知を割り当て、Red Hat Insights イベントを動作グループに関連付けることができます。



### 注記

イベントは複数の動作グループに関連付けることができます。動作グループがどのイベントにも関連付けられていない場合は、イベントが発生しても何も起こりません。

### 前提条件

- 組織管理者が、ユーザーアクセスで通知グループ、ロール、およびメンバーを設定している。
- ユーザーが、通知管理者権限で、Red Hat Hybrid Cloud Console プラットフォームにログインしている。

### 手順

1. [Insights for Red Hat Enterprise Linux > Settings](#) に移動します。

2. Settings メニューで **Notifications** を展開し、Red Hat Enterprise Linux などの **application bundle** を選択します。
3. **Behavior Groups** をクリックして、利用可能な動作グループを表示します。
4. 変更する動作グループの右上隅にある More options メニュー (image::img-hcc-icons-options.png[]) をクリックします。Edit behavior group ウィザードが開きます。

**Edit behavior group** [X]

1 Name  
2 Actions and recipients  
3 Associate event types  
4 Review

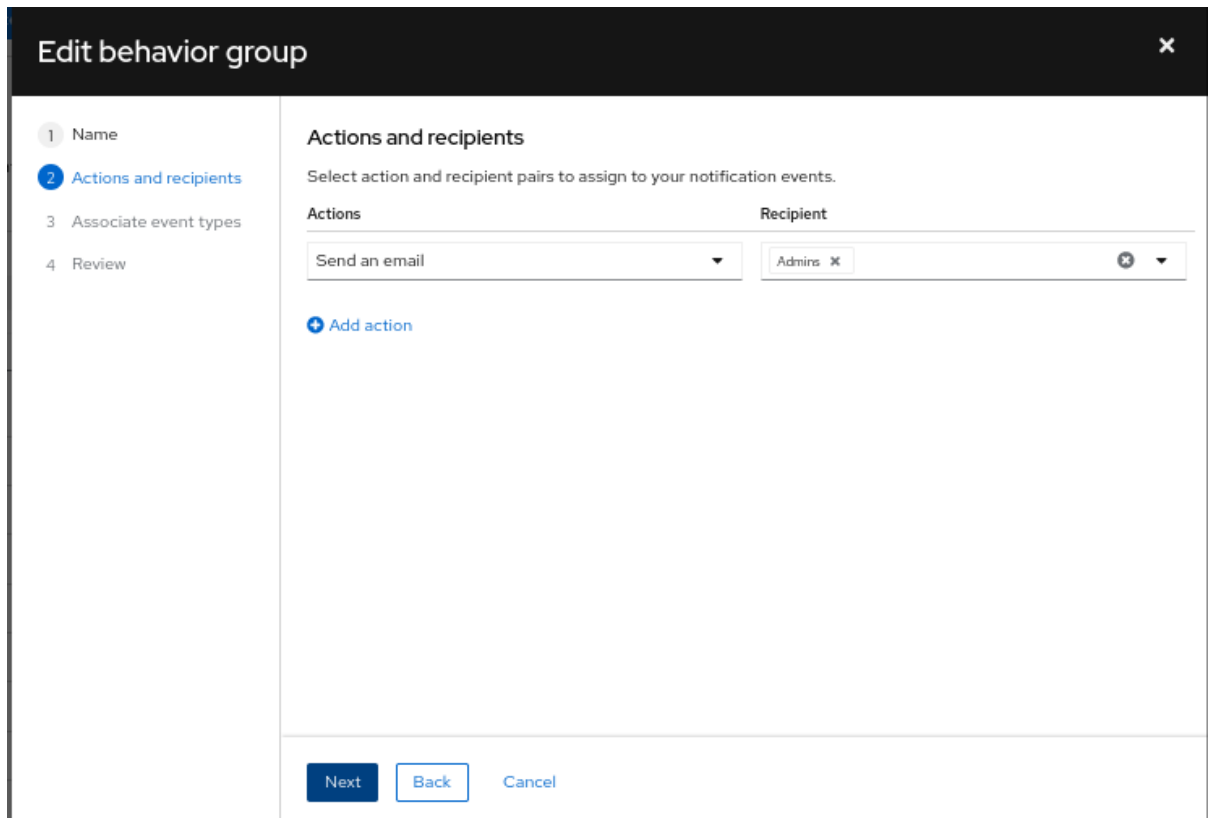
**Name**

Behavior group name \*

Email Admins

Next Back Cancel

5. グループ名を入力してから、**Next** をクリックします。**アクションと受信者** ページが表示されます。
6. **Actions** ドロップダウンリストから **Send an email** を選択するか、一覧からインテグレーションを選択します。



- **Send an email** を選択した場合は、Recipient ドロップダウンリストから受信者を選択します。メール通知が組織内の **すべてのユーザー** に送信されるように指定するか、または受信者を組織内の **管理者** に制限することができます。ユーザーアクセスグループを設定している場合は、ユーザーアクセスグループを選択して電子メール通知を受け取ることができます。
- インテグレーション (インテグレーション: **Webhook** または インテグレーション: **Splunk** など) を選択した場合は、Recipient ドロップダウンリストからインテグレーションエンドポイントを選択します (**SPLUNK\_AUTOMATION** など)。



### 注記

**Settings > Integrations** で各インテグレーションのエンドポイントを設定します。

- 追加のインテグレーションエンドポイントに通知するアクションを追加するには、**Add action** をクリックします。
7. アクションの追加が完了したら、**Next** をクリックします。**イベントタイプの関連付け** ページが表示されます。

### Edit behavior group

- Name
- Actions and recipients
- Associate event types**
- Review

#### Associate event types

Select event types you would like to assign this behavior group to.

10 selected  Filter by event type

1 - 15 of 15 < >

Event type	Application
<input checked="" type="checkbox"/> Resolved recommendation	Advisor
<input type="checkbox"/> New recommendation	Advisor
<input type="checkbox"/> Deactivated recommendation	Advisor
<input checked="" type="checkbox"/> Policy report failed to upload	Compliance
<input checked="" type="checkbox"/> System is non compliant to SCAP policy	Compliance
<input type="checkbox"/> Drift from baseline detected	Drift
<input checked="" type="checkbox"/> Validation error	Inventory
<input checked="" type="checkbox"/> Detected Malware	Malware

8. 通知に追加するイベントのタイプを選択します。イベントタイプの選択が完了したら、**Next** をクリックします。**Review** ページが表示されます。

### Edit behavior group

- Name
- Actions and recipients
- Associate event types
- Review**

#### Review

<b>Name</b>	Email Admins	
<b>Actions and recipients</b>	<b>Action</b> ✉ Send an email	<b>Recipient</b> Users: Admins
<b>Associate event types</b>	<b>Event type</b> New vulnerability with CVSS >= 7.0 Policy report failed to upload Resolved recommendation New vulnerability with Critical Severity Detected Malware Validation error System is non compliant to SCAP policy New advisory Any vulnerability with known exploit New suggestion	<b>Application</b> Vulnerability Compliance Advisor Vulnerability Malware Inventory Compliance Patch Vulnerability Resource Optimization

9. 動作グループに対して選択した設定を確認します。設定の変更を続行するには、**Back** をクリックします。動作グループの設定を保存するには、**Finish** をクリックします。

## 第5章 ユーザー設定

Red Hat Hybrid Cloud Console アカウントの各ユーザーは、メール通知を受け取るようにオプトインする必要があります。ユーザー設定を行わないと、イベントに関するメールを受け取れません。

通知を受け取るサービスおよび受信頻度を選択します。頻度は、(発生するイベントごとに) 即時、または毎日のダイジェストのいずれかになります。



### 重要

サービスの **即時通知** を選択すると、大量のメールを受け取る可能性があります。

### 5.1. メール通知のユーザー設定

各ユーザーは、イベント駆動型のシステム変更に関するメールを受け取るように独自の設定を行います。

#### 前提条件

- 登録ユーザーとして、Red Hat Hybrid Cloud Console プラットフォームにログインしている。

#### 手順

1. アプリケーションウィンドウの右上部分でユーザー名を見つけます。
2. ユーザー名の右側にある矢印をクリックして、**User Preferences** を選択します。
3. 左側のナビゲーションパネルで **Notifications** をクリックし、Red Hat Enterprise Linux または OpenShift などの適切なアプリケーションバンドルを選択します。
4. 各サービスのメール設定を選択します。



### 重要

サービスの **即時通知** を選択すると、大量のメールを受け取る可能性があります。

5. Save をクリックします。

メール通知は、選択した形式および頻度で配信されます。



### 注記

通知の受け取りを停止するには、**Unsubscribe from all** を選択して **Save** をクリックします。この画面で再度サブスクライブしない限り、メール通知を受け取らなくなります。

## 第6章 イベントログおよび統合設定での通知の失敗に関するトラブルシューティング

通知サービスのイベントログにより、通知管理者は通知が適切に機能していないことを簡単に確認できます。イベントログは、Red Hat Hybrid Cloud Console アカウントでトリガーされたイベントと、過去 14 日間に (関連する動作グループで設定されたように) 実行されたアクション一覧を提供します。

各イベントは、**Actions** 列で緑または赤で強調表示された統合タイプを表示します。視覚的なカラーコードにより、メッセージ送信のステータス (成功または失敗) が示されます。

以下のユースケースは、イベントログのトラブルシューティング機能を示しています。

### エンドポイント設定を確認して、接続の低下をトラブルシューティングする

フィルター可能なイベントログは、失敗した通知イベントを確認し、エンドポイントの潜在的な問題を特定するための便利なトラブルシューティングツールです。通知管理者は、イベントログで失敗したアクションを確認した後、統合画面でエンドポイントと最後の 5 回の接続試行のステータスを確認できます。

統合サービスでは、以下の接続ステータスは色で反映されます。

- **緑:** 過去 5 回の送信が成功しました。
- **赤:** 過去 5 回の送信が失敗しました (タイムアウト、404 エラーなど)。
- **黄:** 接続が低下し、過去 5 回の送信のうち少なくとも 2 回は失敗しました。
- **不明:** 統合が呼び出されていないか、または動作グループに関連付けられていません。

### ユーザーが電子メールを受け取っていないのが、設定エラーなのかユーザーエラーなのかを判断する

イベントログは、メールの受信に関連する質問に回答できます。イベントのメールアクションを緑で表示することで、イベントログにより、通知管理者は電子メールが正常に送信されたことを確認できます。通知メールの受信に関する問題は、通知設定ではなく **個々のユーザー設定** にある可能性があります。



#### 重要

通知や統合が適切に設定された場合でも、Red Hat Hybrid Cloud Console アカウントの個々のユーザーは、**ユーザー設定** を設定してメールを受け取ります。



## 6.1. イベントログでの接続失敗の確認

以下の手順を使用して、通知アクションの失敗を確認します。

### 前提条件

- ユーザーアクセスで設定した通知管理者権限で、Red Hat Hybrid Cloud Console にログインする必要があります。
- ユーザーが webhook 統合タイプを使用して通知を受け取る前に、統合サービスの通知管理者が、組織で優先される webhook アプリケーションのエンドポイントを設定する必要があります。
- ユーザーがメール通知を受け取る前に、Hybrid Cloud Console アプリケーションバンドルごとに、個人のメール通知設定を設定する必要があります。

### 手順

1. [Red Hat Hybrid Cloud Console > Settings > Notifications > Event log](#) の順に移動します。
2. イベント、アプリケーション、またはアプリケーションバンドルごとに必要に応じてイベントリストをフィルターリングし、今日、昨日、過去7日間、過去14日間(デフォルト)から選択してイベントを表示するか、過去14日以内でカスタム範囲を設定します。
3. 必要に応じて、日付と時刻の列を昇順または降順で並べ替えます。
4. アプリケーションバンドルのユーザーが意図したとおりに通知を受け取っていない場合は、**View notification settings** をクリックして設定を変更したり、電子メール通知を受け取るユーザー設定をユーザーに確認してもらってください。

## RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

当社のドキュメントに関するご意見やご感想をお寄せください。フィードバックを提供するには、ドキュメントのテキストを強調表示し、コメントを追加してください。

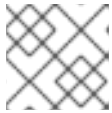
### 前提条件

- Red Hat カスタマーポータルにログインしている。
- Red Hat カスタマーポータルで、**Multi-page HTML** 形式でドキュメントを表示している。

### 手順

フィードバックを提供するには、以下の手順を実施します。

1. ドキュメントの右上隅にある **Feedback** ボタンをクリックして、既存のフィードバックを確認します。



#### 注記

フィードバック機能は、**Multi-page HTML** 形式でのみ有効です。

2. フィードバックを提供するドキュメントのセクションを強調表示します。
3. 強調表示されたテキスト近くに表示される **Add Feedback** ポップアップをクリックします。ページの右側のフィードバックセクションにテキストボックスが表示されます。
4. テキストボックスにフィードバックを入力し、**Submit** をクリックします。ドキュメントに関する問題が作成されます。
5. 問題を表示するには、フィードバックビューで問題リンクをクリックします。